

◎ 月一報恩講(寺子屋サロン):13時30分~15時

親鸞聖人の御命日28日にちなみ「月一報恩講」と呼ぶことにします。勤行・法話・座談(お茶菓子アリ)の和気あいあいの集いで。各々が今思っていることを話題にしたり...、報恩講・お彼岸・お盆前は仏具をお磨きしたり...、お寺でならはのことはしています。

開催日:9/28(月)、10/28(水)お磨き、11/26(木)、

◎ 死別の分かちあいの集い:13時~15時

・夫を亡くした方:毎月第1土曜日(9/5・10/3・11/7)

・自死遺族の方:毎月最終土曜日(9/26・10/31・11月は休)

当事者の方々分かちあいの集いで。住職も参加します。

◎ 整体教室・寺ヨガ・アロマハンドケア・敬老カフェ・よろず相談会
毎月開催していますが、日にちや曜日を固定していないので、超覚寺公式LINEをご覧ください。お寺までお問い合わせください。

◇ 寺院護持費(墓地管理費)について

例年 秋季彼岸会の時期は お納めいただく方が多く
玄関が混み合います。お振り込みもどうぞご利用ください。

【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、
次のように入力してください。

【名義】チヨウカクジ 【店名】五ーハ(読み ゴイチハチ)

【店番】518 (普通預金) 5577060

◇ 報告・連絡・“僧”談

表紙の千羽鶴は、大船渡市在住の方々から寄贈いただいたものです。
2年前の東本願寺奉仕団で一緒に、私も岩手県盛岡市で2年ほど動いていたということで仲良くなり、毎年法座に呼ばれるようになりました。
60年以上も時代は離れていますが、同じ被災地という共感が繋がりを強めてくれます。

本物の千羽鶴は本当に重くてズッシリしています。折ってくださった方々の想いが伝わってくるようでした。

発行人:超覚寺住職 和田隆彦(釋隆恩) (*ーー)人!~合掌

2026年9月秋 超覚寺報 第73号

【ハ丁堀だより】



2026/8/6 岩手県大船渡市の有志からお供え頂いた千羽鶴

浄土真宗(真宗大谷派・東本願寺)



林薦山 憶西院 超覚寺

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI

[since 仏暦2162, 西暦1619, 元和5]

〒730-0013 広島県広島市中区ハ丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

Mail : woda@namuamidabutsu.com

HP : <http://www.namuamidabutsu.com>

<http://mytera.jp/tera/48chokokakuji>

超覚寺 秋の法要のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
ありがたく存じます。

さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(_ _)>

◎ 2026年 秋季彼岸会(永代経)法要

9月19日(土) 13時30分～ 勤行:住職

14時～15時30分 法話(休憩有)

瓜生 崇師(滋賀県東近江市玄照寺)



東本願寺の僧侶では最も法話をされています。
他の宗教や宗派にも招かれたり、落語家さんとか
ボして法座を開いたりされています。
内容は易しくありませんが、さながらロックのライヴ
のような熱量あふれる話し振りを堪能しましょう。

余談ですが…今年に入り私は髪を伸ばしています。それを見た某ご門徒さんが
「いっそのことパンチパーマにしたら」と冗談を言われ、私は「カーブが優勝
したらパンチにしますわ」と応えました。でも私の中ではパンチだけが膨らん
で、優勝する前にやっつけてしまいました。現代風のゆるいパンチパーマでしたが、
気づかれたのが極少数だったのは拍子抜けでした。お彼岸前に再度パーマをか
けますが、今度は昔ながらの強いパンチパーマにしてみます。乞うご期待?!

◎ 2026年 報恩講法要

11月14日(土) 13時30分～ 勤行:市内法中

14時頃～15時30分 法話(休憩有)

超覚寺住職を継職して14年が経ちました。私も五十代最後になり
初めて自坊の報恩講に出講します。広島に移り住んで30年、これま
で学んできたことをお伝えしたいと思います。

☆ 知覧

全国教師連盟の研修が鹿児島県であり、空き時間があつたの
で「知覧特攻平和会館」まで足を延ばしてきました。鹿児島の南部
に特攻隊の基地があつたということくらいは知りましたが、ロ
ビーで流れていた映像のおかげで概要が頭に入りました。かなりの
人数が訪れていましたか、館内にはボンと一式戦闘機「隼」があり、
その手前には隊員たちの遺品が展示されていて、展示室の左右の壁
一面には顔写真が並んでいました。知覧の基地から飛び立っていっ
た若者たちの顔写真に名前と出身地や所属隊などが添えられたパ
ネルがズラッと並ぶのには、胸がキュッと締めつけられました。家族へ
の感謝や故郷への想いが綴られていた彼らの遺書や日記や手紙に
加えて、日の丸の周りに大勢が寄せ書きをした物も並べられていま
した。二度と帰ってこないことがない知覧の地から、彼らはどんな想いで
飛び立っていったのでしょうか…。大学時代に将来を約束した婚約者に
宛てた穴澤利夫大尉の手紙の展示を読み始めると、余りの切なさ
にしばらく呆然として、何度も読み返しました。

沖繩の「ひめゆりの塔」を見学した時も感じましたが、数日後には
必ず死ななければならないのを知りながら日々生きるのとは、表現は良
くないですが、いわば死刑囚と同じで、そう遠くない将来必ず死なな
ければならないのって、どれほどの思いでしょう? 遺された手紙
には家族や大切な人を慮る言葉が綴られていましたか、そこには書
けなかったであろう悔しさや怖さが本当に無かつたのなら、戦時教育
という洗脳の恐ろしさも想像してしまいました。

会館を訪れていたのは本当に老若男女国籍を問わず、中でも修学
旅行生と思しき方々もたくさんいました。飛び立っていった兵士たちは
彼らと同世代だったので、より深く感じ入ったことでしょう。かつて同じ
日本で実際に起きていた出来事ですが、わずか80年経った今、再び
力によって物事が動かされる時代へ戻っています。当時を証言できる
方々も亡くなっていかれます。だからこそ、戦争の悲惨さを証明できる
遺品を見られる知覧特攻平和会館や原爆資料館を訪れる意味があ
ると、強く感じさせられた初めての知覧訪問でした。

☆ 秋分の日

9月23日は「秋分の日」、昼と夜の長さがちょうど同じになり、翌日から少しずつ昼間が短くなっていきます。日本では古くからこの時期を「お彼岸」と呼び、この世とあの世が最も近づくと日として、亡くなったご先祖さまを敬い想う時間として、大切にしてきました。

これまでこの地球上で、いったい何人の人間が亡くなってきたのか、考えたことはありますか？ ある推計によると、約20万年前に現生人類が誕生してから今日までに、この地球上に生まれた人間の累計は、およそ「1170億人」だそうです。今地球上に生きている人間は約80億人で、そこから単純に計算すると、これまで亡くなった人間は約1090億人。こうして数字で見ると、なんだか不思議な感覚になります。私たち生者は、圧倒的な多数の「死者」たちに囲まれて生きているんです。でも、この1090億人という数字は、単なる「いなくなった人間の数」ではありません。今生きている私たちに繋がって受け継いだ「バトンの数」だと捉えています。

私たちが当たり前のよう歩いている道、何気なく口にしている言葉、病気を治すための医学、そして、私を豊かにしてくれる文化。これらは全て、かつてこの空の下で笑い、泣き、必死に生きた1090億人が、少しずつ積み重ね、次の世代へ、また次の世代へと手渡してきた「贈り物」の集積です。名もなき誰かが何千年も前に耕してきた土地を私たちは今も耕し、名もなき誰かが発見した火で私たちは今も暖をとっています。私たちは一人で生きていくように、実は1090億人分の「知恵」と「願い」という尊い贈り物をバトンリレーして、今しつかりと受け継いで走っている最中なんです。お墓参りに行く方も、家で静かに過ごす方も、お浄土を想像してみてください。あなたの背後には、数えきれないほどの命のリレーが繋がっているのです。過去から受け取ったこの膨大なバトンに感謝し、それを自分なりにほんの少しでも磨いて、まだ見ぬ未来の誰かへ手渡していくこと。それこそが「利他」と呼べるのではないのでしょうか。

1170億人のバトン。その尊さは、私を孤独から救ってくれる「温かさ」でもあります。さて、私たちはこのバトンにどんな思いを込めて、次へ繋いでいきたいと思いますか。

☆ 改葬(墓仕舞い・墓移動)

お墓の管理が難しくなっている「墓仕舞い」は、少子化が進む中で身近なものになりました。また、山中や遠方にあるお墓を、お参りしやすい場所に移す「墓移動」も増えました。ただ、個々人の状況や価値観は様々なので、改葬に唯一の正解はありません。

お墓は、古代インドで釈迦様の御遺骨を納めたストウパという仏塔が起源とされます。お墓は御遺骨があるからこそ、仏さまやご先祖さまとのつながりを感じられる大切なご縁の場所になるのです。しかし、お墓に納められているのはあくまで御遺骨であり、ご先祖さまがそこに居るわけではありません。それでも私たちは、御遺骨や墓石に魂が宿るように感じ、「魂抜き」をしなければ改葬できないかと思っています。

浄土真宗でも墓仕舞いの前に勤行をしますが、それは「魂抜き」を意味するものではありません。浄土真宗では、命を終えると阿弥陀如来によって浄土に往生し成仏するとされます。そして、いつでもどこでもご縁のある人々を救済する働きを考えるとされます。ご先祖さまがお墓の中で御遺骨として眠り続ける、という捉え方ではありません。そのため浄土真宗の墓仕舞いは、これまでのご縁に感謝して勤行をしますが、「魂抜き」という意味合いは持たないのです。

超覚寺では、墓仕舞いの後は御遺骨を境内の合同墓に「永代供養」し、それ以降は超覚寺が讃嘆供養をして参ります。諸事情によって墓仕舞いをするようになった訳ですが、家のお墓が無くなることで、仏さまやご先祖さまとのご縁が途切れる訳ではありません。そのご縁は、これからも続いていきます。御遺骨の管理という物理的なことは手放しますが、その変わりに家のお墓の前でなくても、いつでもどこでも手を合わせてお参りできるようになります。もちろん近くに寄れば合同墓にお参りいただきたいですし、久々に親戚集まって法事を勤めたいというのも有難いことです。墓移動も、大抵は不慣れな場所から超覚寺境内の空き区画に移設します。ここは平地の街中の墓地なので、お参りしやすくなったと喜ばれています。お墓や御遺骨を移すのは畏れ多いと思われるかもしれませんが、お参りできなくなるのが最も申し訳ないことです。お参りするために何をすべきか？をこれから一緒に考えていければと思います。どうぞ何でもご相談ください。